

マルクス第2回学習会

11月21日にマルクス第2回学習会を開催し、主催者挨拶で二瓶久勝共同代表から「ガザ地区問題で12月12日に集会を計画している。イスラエルに封鎖された地区であり、これまでもパレスチナ人は、アメリカや欧州に騙されてきた。それに日本も加担している、また現在は搾取が続き多くの市民が大変な状況に追い込まれている。社会体制を変えなければと感じ、世の中にしきみを学びアメリカに抗していかなければならない」とこのあとは、石河康国講師からの熱弁が始まりました。(岩波文庫版の頁数表記です)



それでは33頁の「労賃とは何か、それは如何にして決定されるか」から読みます。ここの要旨はエンゲルスの「前書き」と同じでその方が分かり易いです。ただマルクスらしい深掘りがあります。

まず「労賃は、労働者によって生産された商品にお

ける労働者の分前ではない。…資本家をもって一定量の生産的労働力を買取るべき、既存の商品の一部分である」(36頁)。何の事か、その前後を読むと解ります。**社会的必要労働**について、マルクスは論じます。労働者は自分の生産した物の一部をわが物とするのではなく、すでに商品として巷にある生活資料と労働力を交換するだけだ。しかも、等価交換なのに資本家に多くを「贈呈」して。

考えてみよう。「労働は、労働者自身の生命の活動であり、彼自身の生命の発現である」。しかし、「生命の活動」を「生きるために売る」他なく「生活の一犠牲」にしているのか。しかも労働者が生産する絹も金も宮殿も自分では使えず、ボロをまとい粗末な寝床で休む。

これが「生命の発現」「彼の生活」といえるだろうか、と。マルクスは、労働を人間の諸能力の発現と社会の発展にとって大切と考えています。「**労働ではなく価値創造力**」古典派経済学者の何が問題か。マルクスはこう述べます(43頁)。「経済学者たちは云

う、商品の生産価格は生産費に等しく、これは法則だと。騰貴が下落によりまた下落が騰貴によって相殺される無政府的運動を、彼らは偶然的なものとするのである」。

しかし、この無政府的運動による「変動は…恐るべき荒廃状態を生ぜしめ、地震のようにブルジョア社会の基礎を震撼させるものであり」「この無秩序の運動こそ全運動こそがその秩序なのだ」。

つまり、経済学者が、たまたま需給関係が不均衡になっても結局生産費に落ちつくとして説明して済ますのに反し、需給関係に示される資本主義の「無政府的運動」こそ、価格決定の根本的要素であり社会を震撼させる重大問題だということです。なお 44 頁の後ろから二行目と七行目に「労賃すなわち労働の価格」と表現されていますが、エンゲルスが「労働力」と訂正し忘れていました。「**古典派経済学者の意味通りにとってはならない＝価格が偶然的に決定するものに落ち着く、マルクスは違うと言う**」

以下は、労働力の再生産費というおなじみの説明です。ただ、45～46 頁に「労賃の最低限」とあり、「労働者は生存繁殖しうるだけを受取っていない。…全労働者階級の労賃は、その変動の内部においてこの最低限に一致する」とあります。

これでは、賃金は常に再生産費の最低限だとなりかねません。むしろ資本家階級は常に賃金を押し下げますが、労働者階級は常に反抗します。この辺りはエンゲルスも指摘しますし、マルクス自身が『資本論』では正確に叙述しています（第三卷一四章第二節など、46 頁から「資本」についての経済学者の説明が論評されます。彼らは「資本」は「原料、労働用具、生活手段から成りたつ…労働の生産物」で「新たな生産の手段として役立つ蓄積された労働」だと説明する。だがこの説明は「黒人奴隷とは、黒人種の人間だ」というに同じ同義反復に過ぎない、と。**人間社会＝労働が無ければ消滅する、労働者が持っているものを発言・出していく＝喜びであるべき**

そしてこう述べます。「黒人は黒人である。一定の諸関係のもとで彼は初めて奴隷となる。木綿紡績機械は木綿紡績のための機械である。一定の諸関係のもとでのみそれは資本となる。これらの関係から分離されればそれが資本でないことは、金がそれ自体として貨幣でなく、また砂糖が砂糖価格でないのと同じである」。

古典派経済学は「資本」を超歴史的な存在と見なしました。これに反しマルクスは、経済学の諸範疇を不変のものとしてではなく、時代によって変わる「一定の諸関係」において異なった内容を意味すると考えます。

続けてこうあります。「生産において人間は、自然に働きかけるばかりでなく相互にも働きかける。…生産するためには、彼等は相互に一定の諸関連および諸関係を結ぶのであって、この社会的諸関連および諸関係の内部でのみ、自然にたいする彼等の働きかけが行われ、生産が行われるのである」。

そしてこの社会的諸関係は「生産手段の性格に応じて相違するであろう。」「そのうちで個々人が生産する社会的諸関係は…物質的生産手段の・生産諸力の・変化および発展とともに、変化し変動する。…その各々は同時に、人類の歴史における特殊的な一発展段階を表す」(47 頁)。

このフレーズは、後にマルクスの経済学探究の方法として形成されていく史的唯物論の萌芽として重要です。労働者がいなければ資本もない。また「生きた労働に対する、

蓄積された労働の支配は、蓄積された労働をして初めて資本たらしめる」ともあります。「生きた労働」とは今の労働で、「蓄積された労働」とは労働者が生産した機械や原材料をさします。労働者が作り出した物が労働者を支配するのです。

かかる資本家と労働者の関係の下で何が起こるか。「資本家は…労働者の生産的活動を、創造力を受けとるのであり、…労働者は彼の消費するものを補填するばかりでなく、蓄積された労働に対し、それが以前にもっていたよりも大きな価値を与える」。「この貴重な再生産的力は、…生活手段との交換において、労働者のもとを去って資本のものとなる」(50頁)のです。エンゲルスが「前書き」で「労働力の特殊な属性、価値創造力」に言及した(28頁)ことです。「創造力」は資本を肥大化するのに使われます。かくて「生きた労働にたいする蓄積された労働の権能の増大、労働者階級に対するブルジョアジーの支配の増大」となると言うのです。

52頁以降、労資の利害の一致を説く経済学者の諸説を論駁しています。そして「資本の利害と賃労働の利害は正反対に対立」し、労働者は「敵対する権能・彼等に君臨する他人の富を急速に増大すればするほど…ブルジョアジーによって引きずり回されるための金の鎖を…自ら鍛えることを許される」(60頁)と断じます。

まず資本家間の競争は生産力を高める競争であり、「分業の増進…機械の一そう全面的な採用及び絶えざる改良」(61頁)の競争です。これに成功した資本家は他よりより安く大量の商品を販売し儲けつつ販路も奪う。しかし他の資本家が生産性をあげると逆に「生産様式、生産手段は絶えず変革され、革命される」。

それは「資本にたいして、何らの休息を与えないで、絶えず進め！進め！と耳語する法則である」(65頁)。合理化競争は資本にとって強制法則ということです。



63頁に「これこそは…商品の価格を必然的にその生産費に一致させる法則に他ならない」とあります。43頁で経済学者が「生産価格は生産費に等しい」としてすましたのに対し、生産費に一致させる騰貴と下落の「無政府的運動」こそ本質だと批判しましたね。ここではそれだけでなく、合理化競争でより低い生産費に商品の価格が一致する鉄の法則が説かれています。

65頁からこの法則の労賃決定への影響が説かれます。労働者は自分の労働力の安売り競争と、他人よりより多く労働する競争を強いられます。同時に「労働が簡単化」され「熟練は無価値」となり、労働者同士の競争は激しくなり、労賃も下落します。すなわち「労働がますます不満で不快なものとなるのと同じ程度で競争が増加し、労賃が下落」します。

機械導入競争では「労働者の募集より…解雇によって勝利が得られ」ます。経済学者は、失業者は新たな就業先を見いだすというが「事実はこの虚偽を明白に否定する」等々、まさに現代の事態そのものをマルクスは語っているようです。

前回に続き機械の労働者に及ぼす影響(68頁～)を読みます。「機械によって投げ出された」労働者には、「より低く、より悪く支払われている他の産業部門」しか避難所はない。

機械製作の仕事が増えるか？ 機械の製作にも多くの機械が使われる。機械によって首にされた男子の代わりに3人の子どもと1人の婦人が、しかも男子1人分の賃金で雇われる。

労働者は「より上層から補充される。多数の小産業家及び小金利生活者が労働者階級に転落」し、「仕事を求める腕の森はますます繁ってゆき、腕そのものはますます痩せてゆく」。こうして文学的な比喩を豊富に使うマルクス節が始ったところで終わります。続きがあったのですが、原稿がみつからなかったそうです。



これで『賃労働と資本』は読み終わりました。初めて読んだ方はいかがでしたか。商品が過剰なのに、食事にも事欠く

日々。大勢の失業者がいるのに、就業者は長時間労働と人手不足に悩む現代。おかしいと感じたことが、資本主義システムの問題として考える手掛りとなったら幸いです。

最後に質問と意見交換を行い、◎AIとの関係で将来は変わるのか？◎人はいなくなる、追われて別なところに移る。全てが非正規となる可能性も、◎アメリカでバイデン大統領が自動車労組のストライキを激励したが？◎日本の産別労組は潰された。企業別労組に置き換えられた。春闘方式もやめようとしている経営側である。

マルクス学習会を終了してきました。お疲れ様でした。

年間活動総括と次期総会に向けて

なお、今後役員会にて総括を行い次年度に向けて活動方針を討議する予定です。厳しい生活を断ち切る、住みやすい社会にするためにも活動を止めるわけにはいきません。

いい加減な、自民党岸田政権を壊し交代させるためにも私たちの行動が、結果を大きく左右します。皆様方のご支援とご協力を得ながら活動していく所存であります。第5回総会の日時が決まり次第、ご案内を申し上げます。是非とも多くの皆様方の参加をお持ちしております。

【京葉ユニオン組合員募集中です、ニュース読者の方で加入希望者は連絡を下さい。年会費6,000円です。郵便振込でも加入手続き可能です、出費が多く厳しい生活実態ですが応援・支援カンパも随時受け付けていますので、ご協力を宜しくお願いします】